

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	おれんじハウス西葛西保育園
施設所在地	江戸川区西葛西5-8-3 小島町二丁目団地3号棟1階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

日々の活動の中で子どもたちが公園で見つけたダンゴムシを観察したり、小動物などに気づいて指差しをする姿が多く見られるようになり、生き物の不思議な生態や自然の美しさに心を動かしている今が、学びを深める絶好の機会であると捉えた。

子どもたちの「もっと知りたい」という意欲を形にするため、身近な自然を対象とした探究活動を通じ、思考力や表現力の向上を目指した。

## 2. 活動スケジュール

2025年6月～8月 カブトムシの飼育（対象：0,1,2歳児21名。週1回活動）

2025年9月～10月 アオムシの飼育（対象：2歳児9名。週1回活動）

2025年11月～2026年2月 水の生き物に触れる（対象：0,1,2歳児21名。月2回活動）

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

①カブトムシのお家作り、成長模型や図鑑、絵本「かぶとむしのぶんぶんちゃんうまれたよ」などを設置し、虫への興味関心を育む。

②アオムシのお家作り、図鑑、はらぺこあおむしの絵本、はらぺこあおむしにちなんだパズルや玩具などで興味関心を育む。

③金魚の飼育、移動水族館を読んでの生き物ふれあい体験、図鑑、絵本、ブロックや玩具を使って水の中の世界の表現遊び。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### ①カブトムシ

2025年6月中旬頃 カブトムシの幼虫飼育

2025年8月中旬頃 幼虫から成虫になったことを知らせ、観察をする。

2025年8月下旬頃 成虫のカブトムシを隣の園のカブトムシと交配させる。

###### ②アオムシ

2025年9月下旬頃 アオムシを飼育→虫かごに入れ、木の枝や葉っぱを準備

2025年9月末頃 アオムシの成長を絵本「はらぺこあおむし」で伝えていく  
はらぺこあおむしの玩具などとおして、実際の「アオムシ」に興味  
関心をより繋げていく

2025年10月11日 蝶に成長（土曜日の為、園内に写真を掲示）

###### ③水の生き物

2025年11月頃～ 2週間に1回程度 行船公園：自然動物園水生コーナーで金魚の観察

2026年1月下旬 水槽棚の組み立て

2026年2月5日～ 金魚飼育開始（観察）

2026年2月6日～ 子どもたちで餌やりを開始

2026年2月9日 さかな図鑑で「金魚」を探す、見比べてみる

2026年2月14日 移動水族館実施

2026年2月27日 水の世界を制作（保育室内）

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

###### ①カブトムシ

カブトムシの幼虫をもらったことをきっかけにカブトムシに対する興味関心を高めてみようと考え、導入でカブトムシの卵・幼虫・成虫のイラストや絵本を見せると興味を示す様子が見られた。実際にカブトムシの幼虫を見るとムニムニと身体をくねらせている姿に驚く子や興味津々で幼虫を観察する子などがいた。

また2歳児は成虫になった際にどんな色のカブトムシになるか、職員が準備した色とりどりのカブトムシのイラストを見て、個々に「これ！」と選択をし、降園時には保護者の方と一緒に掲示物を見て「これになるんだよ」と話している姿が見られるようになった。保護者の方にも降園時に園で取り組んでいることについて話をすると子どもと一緒にカブトムシが何になるか楽しみな様子だった。成虫になった際には喜びを感じ「早く見たい！」や「えっ！カブトムシになったの！」と嬉しそうにする姿が見られ、観察をし「黒だったね」や「ツノがないね」と話し合っていた。餌をあげる際には「ごはんだよー」とカブトムシに優しく声を掛けたり「美味しいかな？」と友だちと話したりしながら世話を楽しんでいった。また、「今日は元気だね」とカブトムシを毎日観察し世話をすることでカブトムシの様子や動きの変化に気づいていた。

隣接園のオスのカブトムシと交配させる際には2匹を見比べて「ツノがあるね」や「ツノがないね」と友だち同士で会話することも増えていった。

## ②アオムシ

アオムシを公園で見つけ、保育園で育てたいという子どもの言葉を受け止め保育園へ連れて帰ることにした。自分たちで育てる喜びを感じてもらいたいと考え、保育者が「アオムシが生きるために何が必要かな？」と子どもたちに尋ねると子どもたちは自ら考えて落ち葉や木の枝を持ち帰った。保育園では『はらぺこあおむし』の絵本を読むと「まだ赤ちゃんだね」や「いっぱいごはんをあげよう」と絵本の内容と実際のアオムシを比較していた。また、飼育ケースを子どもたちが見える位置に設定したことで、登園してくると「アオムシいるかな？」と楽しみながら観察をし、餌をあげる際には「キャベツがいいかな？」や「今日は何が食べたいのかな？」と自ら考えながら世話をするようになった。保育者も子どもたちの意見を取り入れていき、栄養士に給食で余った野菜等をもらい子どもたちと一緒に餌をあげていった。

さなぎになった際には「今は寝てるよね」とはらぺこあおむしの内容を思い出す姿や「シーだよ」お互いに声を掛け合い静かに見守っていた。

蝶になった瞬間には立ち会えなかったが、写真を見せると「わーすごい」や「チョウチョになった」や「チョウチョはどこに行ったのかな？」と色々な言葉が出ていた。保育者はその疑問を聞き逃さず、蝶は外で花の蜜を探しに行ったことを知らせていった。アオムシを育てて蝶へと変化したことに喜びを感じた子どもたちは散歩の際に花の蜜を吸っている蝶を見ると「あ、チョウチョさんだ」と笑みを浮かべたり「赤ちゃんの時は、アオムシだったよね」と自分の体験を話す姿が増えていった。

## ③水の生き物

散歩中に自然動物公園にいる水槽をのぞき込んで「赤がかわいい！」「黄色がいい！」と指差しをしながらお気に入りの金魚を教え合ったり、「金魚さんはごはん食べた？」「何を食べるのかな？」と保育者に質問する様子が頻繁に見られた。そんな子どもたちの姿を見て、保育園でも金魚の世話をすることにした。餌やりを実際に子どもたちが行ってみると、全員が餌やりに興味を持ち、「あ！食べた！先生見てて！」ととても嬉しそうにしていた。

魚やカメなど色々な水の生き物に興味を示す子どもたちの様子を見て、様々な水生動物と触れ合う機会を持つことで子どもたちが「これは何だろう」と考える機会を増やしたいと考え、移動水族館を開催。金魚も移動水族館で来ており、「保育園と一緒にだね」と飼育している金魚と見比べ、近くで観察し「かわいいね」と話していた。どの生き物に対しても、保育者がそばで見守りながら「優しくね」と伝えていたため、子どもたちも優しく触ろうとしていた。初めて見る生き物には、水槽をのぞき込んで「これなあに？」「何食べるの？」と不思議そうに見ていた。

移動水族館後の保育室では子どもたちの興味関心に合わせ水の世界を制作すると、何度も部屋の中に入り「この前これいたね！」と友達同士で会話をしたり、見たことのない生き物があると図鑑で調べて知ろうしたり、積み木やブロックで水の世界を作ろうとするなど遊びに広がりが出てきた。



## 5、振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

### ①カブトムシ

・カブトムシに触ることに抵抗を感じていた子ども毎日の世話を通して触れるようになり、触ってみようとする姿が見られた。始めは保育者を通してカブトムシの世話をしていたが、日数が経つに連れて子どもたちからカブトムシの世話をするようになったり、幼虫から成虫になったことを喜んだりし、命の大切さを味わうことができていた。

・カブトムシを世話することで、少しずつ成長していく様子に愛着を感じ、自分も触ってみたい、大切に育てたいなどと今まで見られなかった様々な感情が芽生えていた。

・幼虫の時は土の中にいるため目に見えず、カブトムシへの興味関心が薄れてしまう時もあった。写真などを使い、土の中にいる幼虫の様子が分かるように伝えていくことに苦労した。

### ②アオムシ

・子どもたちが見つけたアオムシを実際に飼育することで、毎日「お腹空いてるかな?」「今日はたくさん動いてるね」などと楽しみながら世話をする姿や『はらぺこあおむし』の絵本と見比べて成長過程を理解する姿が見られていた。

・今まで何気なく散歩していた子どもたちもアオムシを育てたことをきっかけに虫や花、植物に興味を持つ姿が多く見られていた。

・子どもたちの声に寄り添い保育者も一緒にやってみることで子どもたちが主体的に考え行動している姿を見て、子どもたちの興味を保育へと繋げていくことがとても大切だと感じた。

・成虫になったのが土曜日で子どもたちに孵化する瞬間を見せることができなかったことが残念だった。

### ③水の生き物

・金魚を飼育し始めてすぐ病気になってしまい、保育者も生き物を育てる大変さを感じたが、子どもたちは金魚を気にかけて様子を観察したり、病気で隔離している金魚を「どうしたの?」と心配したりと、生き物を心配する気持ちが芽生えていた。

・毎日観察したり当番で餌をあげたりすることで生き物の世話の大切さも感じ始めた。

・移動水族館を行ったことで子どもたちの生き物に対する興味がより増し、散歩ではいつも歩いている道にある川や池をのぞき込んで生き物がいなか探す様子が見られ、生き物探しへと繋がっている。

・実際に見たり触ったりすることで、興味はあるけど触らずに観察だけする子、指先で優しく触る子、手のひらに乗せる子などそれぞれ一人ひとりの触り方の違いに気づくことができた。移動水族館を実施したことで育まれた「生き物」への興味や関心が、日々の保育の中で子どもたちが感じる疑問や探究心に対して、自ら「これなあに?」「見たい」「やりたい」などと保育者や友達同士で話し合う問いが増えたと感じる。